立川市は「男女共同参画都市宣言」をしています

新しい生活文化を発信する

アイム

主な記事

1面　変わる立川、住んでいる人の実感は？「立川のここが好き！　ここが嫌い！」
2〜3面　編集委員が見つけた、街(まち)をつくる人たち
つきまとい防止条例、施行1年(立川駅周辺をパトロール)
人のつながりに街がみえた！(地域を見守るアイデア商店街、他)
4面　立川・この人／アイムインフォメーション

12/25 NO.17
2006(平成18)年
年3回(8月・12月・4月)発行

発行／立川市女性総合センター
企画・編集／市民編集委員
(〒190-0012)立川市曙町2-36-2
☎042-528-6801　FAX042-528-6805
e-mailアドレス　tc-aim5@m-net.ne.jp

まちづくりも男女共同参画で

変わる立川 住んでいる人の実感は!?

ここ数年、開発がさらに進む立川。生活者の実感を生かした〈まちづくり〉のためにも、男女共同参画がキーワードです。そこでアイム第17号では、アイムらしい視点で〈住みやすい街〉〈住みたくなるまち〉を考えてみました。

インタビュー　○…立川のここが好き！　●…ここが嫌い！

○　大型店が駅前にたくさんあって、都心まで行かなくても買い物に不自由しない。（柴崎町50代女性）

●　遊興施設や風俗店が特に南口に多い。飲みに行くのには良いが、生活するには通りにくい場所がある。（錦町50代男性）

●　利用者数に比べて自転車置き場が少ない。（高松町30代男性）

○　そう遠くない範囲に昭和記念公園や、根川の緑道、多摩川などの緑が豊かな場所がある。（錦町40代女性）

●　商業面や施設面で北西部が置き去りにされているように思える。北の方には児童館もない。（砂川町50代女性）

○　平日は中央図書館が夜7時まで利用できるようになり、使いやすくなった。地域の図書館も数が多くて、子どもが使うのにも便利。（曙町30代男性）

○　ペディストリアンデッキが整備され、車椅子でも駅周辺が利用しやすくなった。（曙町20代女性）

●　駅北口へ向かう立川通りの渋滞がひどい。もう見えてるのにバスで15分以上かかることもある。降りようにもバス停がないのでどうしようもなく、イライラしているばかり。（柏町50代女性）

○　ほとんどの自転車置き場が無料で使える。（富士見町20代男性）

○　くるりんバスは高齢者には有り難い。運転手さんも優しいので気持ちよく利用できる。（錦町70代女性）

●　駅前に緑が少ない。市民が憩える場所がない。（砂川町50代女性）

○　交通の便がよい。特別快速も止まるし、いろんな路線が乗り入れている。終電が遅いのも良い。（高松町50代男性）

●　けばけばしい看板が多くて、お隣の国立に比べて下品に感じる。子育てをするのに良い環境とは言い難いし、日が暮れると安心して歩けない。（錦町40代女性）

●　商業施設が駅周辺に集まりすぎている。夜子どもが熱を出したりしても近くには薬局もない。産直野菜も南では手に入らない。（錦町40代女性）

○　モノレールができてとても便利になった。（幸町60代女性）

○　夏には大きなお祭りや花火大会など、地域のイベントが盛ん。町内会での盆踊りも楽しい。（羽衣町30代女性）

●　子どもが気軽に遊べるような公園が少ない。（錦町30代女性）

●　くるりんバスの本数が少なくて使いずらい。（西砂町50代女性）

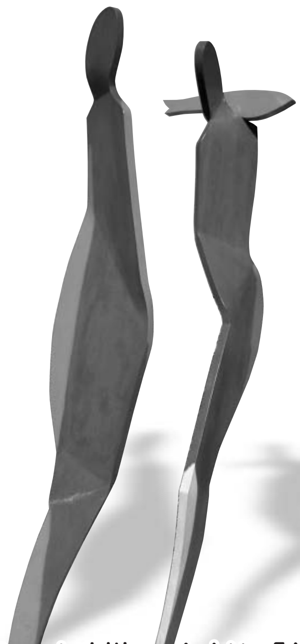
○　とにかく便利の一言に尽きる。（錦町60代男性）

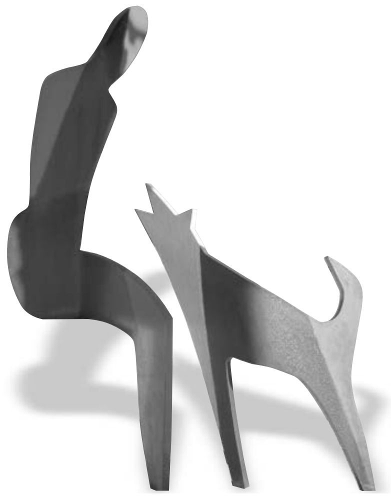
●　モノレール高松駅周辺の再開発地区にはコンビニすらない。何もない広い通りは寂しくて、怖い気もする。（高松町30代女性）

○　地元で産直野菜が手に入るのがうれしい。（砂川町50代女性）

●　道路や歩道の舗装が良くないので、ベビーカーや車椅子を利用するのにずいぶん振動がある。電柱が歩道ふさいでいる所もまだ多い。（曙町20代女性）

●　公共施設などの案内標識が不親切。社会保険事務所やアイムなどへの道をしょっちゅう聞かれる。（錦町40代女性）





【写真】ファーレ立川アートより　「タチカワの女たち」　エステル・アルバルダネ 作（スペイン）

立川市の主なデータ　（平成17年度立川市統計年報）（　）内は前年比

人口（H17.1.1現在）	168,828人	(2,000 増)	乗客数　JR	163,307人	(2,041 増)
（男性）	84,438人		私鉄	26.131人	(　901 増)
（女性）	84.390人		バス利用者数（1日）	22.687人	(　200 増)
保育園・幼稚園数	28園・13園		モノレール利用者数（1日）	46.171人	(　800 増)
小学校	20校		都市公園数	87ヶ所・53ha	
中学校	9校		ゴミ収集量	55,942トン	(1,823 減)
高等学校	5校		駐輪場収容台数	16,437台	
図書館	6ヶ所		農地面積	35.5ha・438戸	
（蔵書数）	756,434冊	(8,735 増)	消費生活相談件数（平成17年度）	2,504件	(　954 減)

アイム編集委員が見つけた 街（まち）をつくる人たち

最近、立川でも住民代表や女性代表がまちづくりの場に参加するようになってきました。地元が住みよいまちになるよう商店街やまち角で生き生きと活動している女性たちも増えています。立川をもっと住みやすいまちにするにはどうしたらよいか、そんな活動からヒントを探ってみました。

便利にはなったけれど… 安心できるまちづくり どうやって…

立川駅周辺をパトロール

最近、急速に再開発が進んでいるJR立川駅南口周辺。駅からデッキがモノレール立川南駅まで伸びて便利になる一方、はでな看板も目につくようになりました。また北口のデッキではキャッチセールスも多く、住民にとっても立川駅利用者にとっても、不安な部分があります。こうした状況を改善するために、日夜駅構内や繁華街をパトロールをしている人たちがいます。立川市の生活安全課小田主査に伺ってみました。

安全安心なまちめざして、毎日JR立川駅コンコースをパトロール

駅周辺のパトロールは、以前から試みられていて、北口及び南口の町会、自治会、商店会が一体となって実施していた時期もあったのですが、法的根拠がなく、なかなか成果が上がりませんでした。そこで立川市では市民公募による協議会を立ち上げ、そこでの協議をもとに「立川市つきまとい勧誘行為等防止条例」を昨年3月に制定、同年10月から施行しています。

つきまとい防止条例 施行一年

現在、この条例に基づいて市安全安心パトロール員として指導員3名と委託警備員5名が、午後3時から午後11時まで、立川駅コンコースと駅周辺繁華街地区のパトロールを行っています。また、その他にも警察や事業者、市管理職も一緒になって駅周辺のパトロール活動をしています。

その結果、改札口前の通路ではいわゆるキャバクラ店従業員への勧誘行為（スカウト）はなくなりました。しかし、夜8時過ぎになると、北口郵便局近くの裏路地や南口すずらん通りの一角で客引き行為があり、苦情が出ています。現在は、パトロール隊の姿を見つけると、勧誘行為をやめたり建物の敷地内に戻るまでになりました。このように、条例があることできちんとした対応が取れ、成果につながっています。

パトロールと同時に「立川市違法広告物撤去要綱」に基づきビラやポスターなども撤去。こうした活動も、健全な街の景観づくりに役立っています。パトロールは大変な仕事ですが、安全なまちをめざして、みんな頑張っています。

「まちづくり政策協働研究会」研究員にアエネから3人

「只今勉強中」と川合さん

「研究会」にはアエネ（アイム・エンパワーメント・ネットワーク）から、3人が参加しています。そのお一人、川合薫さんが所属するのは「地域経済」グループ。立川の経済活動を持続させるために民間企業や大型店・商店街の活性化が課題ですが、今は多くの資料を検討している段階だそうです。これからの話し合いには、自分の経験も踏まえて高齢者への食事の宅配や医療面の充実などを提言していきたいと意欲的です。「研究会」を通して行政体質が「待ち」から「攻め」に変わると川合さんは確信しています。

声を届けようまちづくりに

未来のシナリオづくり、市役所跡地利用

まちづくり政策協働研究会

2/19、アイムで中間報告シンポジウム

市では現在「市民力と連携のまちづくり」をテーマにさまざまな取り組みが行われています。「まちづくり政策協働研究会」もそのひとつ。まちづくりについて行政と市民や大学、企業の研究機関とが共同研究を行うプロジェクトで、平成17年度に設置されました。中・長期的な立川のまちづくりについて①自主調査②情報収集③政策研究④情報発信⑤ネットワークの構築などの活動を行っています。

現在、研究会では立川の「地域経済」と「コミュニティ」の分科会に分かれ、それぞれ「地域経済の持続可能性を確かなものにする」にはどうしたらよいか、「豊かで負荷の少ない、ゆとりある市民生活・くらしを実現する」には何が必要かなどの話し合いが始まったところです。

従来の行政主導から「協働」の理念のもとに、市民・企業・学識経験者・行政が対等に話し合う新しい手法で立川の「未来のシナリオ作り」が進められています。

立川駅南口周辺まちづくり協議会傍聴記

南口の活性化をめざして

「立川駅南口周辺まちづくり協議会」は、平成17年3月30日に発足。ほぼ毎月1回協議会が開かれてきました。この会は、現立川市庁舎移転後の敷地利用を中心に、立川駅南口周辺の活性化をめざし、市民参画によって行政との協働を計ろうと設置されたものです。

参画市民は公募市民、自治会、立川駅南口商店街連合会、旧立川市新庁舎建設市民100人委員会の方々約30人で構成され、内女性委員は4名。去る10月17日、第19回の協議会を傍聴しました。

先の立川市新庁舎建設市民100人委員会が残した「にぎわいと文化のひびきあうまち」というコンセプトを土台に、南口商業地と共存共栄できるまちにしていくためには、現庁舎跡地にどんな施設を建てたら良いかなど、熱心に話しあっていました。

今後は広報で中間のまとめを発表して市民から意見を募集。募集期間中には提案発表会の開催も予定されています。

羽衣商店街 地域を見守る、アイデア商店街

お茶ガラを詰めた「エコ茶んドール」には消臭効果も

「お茶ガラもってきたよ」

「じゃあチップ2枚ね」

お茶屋さんに茶ガラを持ってきたお客さん、ついでにお茶を飲みながらお店の人と世間話に花が咲き・・。こんなやりとりが日常茶飯事なのは羽衣商店街。地域をあげて環境保護活動（エコ活動）に取り組んでいることが評価され、都が協賛している「第3回グリーンコンシューマー奨励賞」を受賞しました。

ハローチップを生かして活気

そもそもはお茶屋さんを経営している池谷さんが無農薬茶の茶ガラを有効利用して堆肥にしたことが発端でした。「茶ガラを商店街で使えるハローチップ2枚と交換して、堆肥は欲しい方に差し上げています。」その後、賛同してくれるお店も広がり、たとえばクリーニング店はハンガー3本を10円で引き取り、魚屋は刺身パックのブリッジ20個とハローチップ50枚を引き換えるなど、商店街を巻き込んだ活動になっています。「お客さんにサービスすれば、またここのお店で買おうと思ってくれます。」商品を通した循環が商店街の活気につながっているのです。

地元商店街が見守りに一役

さらに思わぬ副産物も。「日頃お客さんの顔を見てあれこれ話しているので、たとえば、今日は元気がないなとか、今日はいいことがあったみたいだとかがわかるんです。店の前を通る子どもたちも、危険なことがあった時は、すぐに飛んで出ていけますよ。」

顔見知りになることで、子どもやお年寄りの見守りにも、地元商店街が大きな力を発揮しています。

チャレンジショップで挑戦

おばさんカフェ トークスペース

立川市商工会議所に、商店街活性化を目的としたチャレンジショップ制度（1年限定・割安でチャレンジショップが借りられる）があります。この制度を利用し、高橋和子さん（エンパワーメント講座修了者）と桝井満子さんが「トーク・スペース」を開店。占いを活かした人生相談など、おしゃべりでホッとできる場と好評です。

人（ひと）のつながりに街がみえた！

公園を元気に

よい公園があるかどうかは子どもたちにはもちろん、私たち子育て世代にとっても切実な問題です。立川市には国営の昭和記念公園をはじめ、250余の公園がありますが、子どもたちが夢中になって遊べる公園ばかりではありません。

たとえば、幼稚園の息子と利用する公園も、ぎんなん取りや読書をする高齢者が多く、午後の時間帯になっても小学生の姿をあまり見かけません。衛生面や安全面、防犯面の配慮で、遊具の数が少なくなっていることも影響しているのかもしれません。

一方、市は、市立公園の管理や遊具等の安全点検を手伝っていただける団体に、「公園等清掃美化協力員会」を組織していただくよう呼びかけています。多くの人の協力で地域の公園が、もっと魅力ある空間に生まれ変わることを期待しています。

空き店舗を元気の発信地に

高齢者の食と職を考えるチャンプルーの会

ランチが人気「レストラン・サラ」

若葉町の空き店舗を活用して高齢者のためのNPO法人を立ち上げたのは「高齢者の食と職を考えるチャンプルーの会」（代表・紀平容子さん）。現在、「レストラン・サラ」「デイサービス・サラ」「フリースペース・サラ」の3施設を運営しています。

地域で知り合いを増やしたい

活動を始めた動機は「自分たちの老後を考えて」でした。「団塊という人数の多い世代では、年とった時に公的サービスだけで豊かな老後は無理そう、かといって手持ちのお金も限られている。それではその代わりに何が老後を支えてくれるだろうと考えたら、地域に知り合いを広げることだと思ったのです」と紀平さん。そしてその拠点として空き店舗を活用することを選びました。

多くの人の「場」となって

レストランで食事を提供するほか、外出が困難な高齢者などへの弁当の宅配サービスが一日30～50食。宅配の中心を担うのはボランティアの男性です。サラの運営には有償、無償に関わらず実にさまざまな人が関わっています。利用者とスタッフの間も双方向。たとえばデイサービス利用者が、ある時は趣味を生かして教えたり「持ちつ持たれつ」の関係ができています。「老いても住み慣れた地で楽しく暮らす」ヒントがいっぱいです。

野菜といっしょに会話も弾む

庭先販売

五日市街道沿いを中心に点在する農家の庭先販売。立川は意外と農地が多く、新鮮な地場野菜に恵まれています。

かぶや大根、ほうれん草など旬の採りたて野菜、自家製の漬物。「このかぶはちょっと小粒だけど、おいしいよ」「お宅の漬物がおいしくて、また買いにきたわ」。のどかな会話もまた楽しい庭先販売です。

立川・この人

アイムの周りには109のアートが！ もっともっと市民に知って欲しい。

会長・中島 満喜子さんとファーレ倶楽部の皆さん

97年から活動開始。ツアーは年30回程度、500〜800人に作品を紹介している。定期ツアー(年2回)以外は依頼に応じて実施。申し込み先はファーレ倶楽部☎535ー1396(中島さん)。

●ファーレ倶楽部ってどんな会ですか？

ファーレ立川と呼ばれるアイム周辺に、94年、36カ国、92人のアーティストによる109点の作品が集められ、すべて屋外に展示されました。私たちは作品をじかに見ながら、作者の意図や制作の背景などを説明するガイドツアーを行っています。

ツアーは無料で、小学生や大学生、アートでまちづくりを考えている行政関係の方、家族や友だち同士で参加される方も多く、依頼があれば1人でもご案内させて頂いています。

全作品を回ると、3時間のツアーになりますが、エリアに分けた1時間から1時間半のコースが人気です。

また、年に2回、作品の清掃をしています。有志を募って一緒に清掃したあと、作者を招いてワークショップを開いています。ふだん会うことのない作者と交流ができて、アートが一層身近に感じられる絶好の機会になっています。

現在会員数は36名。96年に市が開催したアートコンダクター養成講座の受講者有志でスタート。ガイドは現在7名です。

活動10年目の今年、解説員の養成講座を独自企画で始めました。

●ファーレのアートにはどんな特徴がありますか？

インターネットでパブリックアートを検索すると、必ずファーレ立川がみつかります。

作品数の多さもありますが、作品が通風口や吸水口のカバーになっていたり車止めになっていたり、街灯やベンチだけでなく、すべてのアートが機能を持っている点が特徴です。こうしたアートの使われ方が注目を集め、ファーレの作品群は世界都市学会でも事例発表されました。

●ツアーをされていて感じることは？

やはり子ども達の反応が素直で面白い！ 学ぶこともたくさんあります。あとで家族を連れて来て、得意満面でガイドしていた、という話を聞くと、とてもうれしくなりますね。

反対に作品が壊されていたり、傷つけられたり、落書きされたりする時は、とても悲しくなります。違法駐輪の自転車に埋まっているのも困りますね。

もう一つ残念なことは、これらのアートをご存じない市民が意外に多いこと。作品には特定の日時や場所で見ると驚くような仕掛けがあったり、意外な素材から作られていたりと、通り過ぎただけではわからない魅力がたくさんあって、私たちは「驚きと発見の街」と呼んでいます。もっともっと市民の方にファーレのアートを身近に感じて欲しいと思っています。

アイムは男女共生社会の推進と、消費生活の向上をめざす市民活動の拠点です。

アイムインフォメーション

女性が生き生きとチャレンジできる街に
男女雇用平等調査を実施しました
市内企業約1,000社対象に 11/20〜12/22

女性総合センターでは11月の末から1ヶ月かけて、市内の事業所を対象に、郵送による「男女雇用平等に関する意識・実態調査」を実施しました。

これは、昨年4月に策定された、立川市第4次男女共生社会推進計画「男女共生社会実現のための立川プラン」の実施計画にあげられた主要課題のひとつ、「あらゆる分野での男女共同参画の推進」のアクションプランとして実施されたもので、企業・事業所の、男女共同参画への取り組み状況について調べることが目的です。

対象としたのは、市内に本社もしくは事業所がある、従業員10人以上の企業、約1,000社。回答は人事部門もしくは総務部門でお願いしました。

両立支援のために必要な制度は何だと思いますか？など16項目で

女性の有職率が高まる中、労働時間の短縮やフレックスタイムの導入、休暇制度の促進など、男女がともに、バランスの取れた働き方のできる職場づくりが求められていますが、現状はどうなっているのでしょうか。

設問は選択式で、全部で16項目にわたって聞いています。

たとえば、①正社員の男女別勤続年数や女性管理職の人数、女性の再雇用の実態など女性労働者の現状、②育児・介護休業制度など、仕事との両立支援のための制度導入の実態と利用状況、利用者へのサポートシステムのあり方、③女性の能力発揮促進のための取り組みや、男女雇用平等を進めるうえで今後必要とされることなどについても回答していただきました。

来年、2月をめどに課題を整理

立川プランでは、政策決定の過程へ女性がさらに参画するよう、家庭・地域生活へは男性が積極的に参画するよう呼びかけています。

また、女性の就労意識が高まる中、とりわけ結婚や出産、育児などにより一端仕事を離れた女性労働者が、再就職や社会生活に再チャレンジしやすくするための支援が求められています。

立川市では、こうした女性労働者の現状や休業制度の利用状況、今後のニーズなどを把握することで、男女雇用平等、男女共同参画の課題を明らかにしていきたいと考えています。

今回実施した調査の結果は、来年2月をめどにまとめていくことを予定しています。

お知らせ

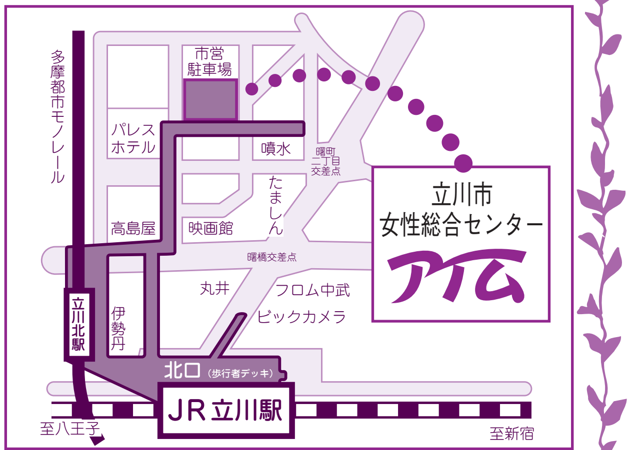
■チャンプルーの会が 毎日介護賞、最高賞受賞！

本誌3面、アイム編集委員がみつけた、街をつくる人々「空き店舗を元気の発信地に」に登場していただいた、「NPO法人 高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会」（若葉町）が、11月3日、毎日介護賞（毎日新聞社主催、厚生労働省・日本看護協会、ほか協賛）の最高賞を受賞されました。

99年、出資者を募って、住み慣れた地域で自立して楽しく老後を暮らせる拠点を、と始めた活動が評価されました。

質の高い活動が人々をつなげ、「まち」の核となって、私たちの住むまち「立川」をつくっていくのだという思いを強くした今回の受賞でした。

■次号、アイムは2月10日発行です

市民公募による実行委員会が企画・運営をする「第5回くらしフェスタ立川」と「アイムフォーラム」の準備が、フェスタ＝2月17日（土）・18日（日）、フォーラム＝3月3日（土）・4日（日）の本番に向けて、いよいよ佳境に入ってきました。

そこでアイム次回号は、開催直前記事を満載して、2月10日号でお届けします。ご期待ください！